

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2298400041		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム湖西 2ユニット合同(1階・2階)		
所在地	静岡県湖西市鷺津2522-33		
自己評価作成日	平成24年6月12日	評価結果市町村受理日	平成24年7月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokouhyou.jp/kai gos ip/infomationPublic.do?JCD=2298400041&SCD=320&PCD=22
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成24年6月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の、一人ひとりの人生が輝くように とのホーム目標を掲げ、家族のようなではなく家族として時間を共有し、大切な人生をともに過ごすことを目指し、個々の利用者様を支えつつ、日々どう暮らしていくかを模索しています。日々少しでもたくさんの笑顔を残して頂けるよう、まず職員が笑顔でいられることを目指しています。週に1回以上は、外に出る機会を作ることを目標に、外出、買い物、散歩、庭での外気浴などで身体機能の継続ができ、普通に近い生活の継続が出来ればと取り組んでいます。

ボランティアの受入にも力を入れ、地域の方と触れ合える機会を持てるよう、また地域に認知症介護の情報発信が出来る施設となれるよう、職員一同研鑽に励んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

風光明媚な浜名湖西岸の入り江に面し、湖面を渡る爽やかな風が迎えてくれるところに事業所は位置しています。施設なしの開放感と利用者が活けた花々の歓迎があり、入口の一步から気持ちよく過ごせます。地元出身であり、看護師の管理者は、地域ネットワークや健康管理を中心に家族からは安心という信頼を得ていて、良好な信頼関係が築けていることは家族アンケートでも確認できています。また、急務であった職員の固定化にもその力はいかなく発揮され、成果が上がっています。地域に呼びかけた認知症勉強会は年2回と定着化し、近くの湖西高校のボランティア部からの訪問もあり、地域交流も年々拡がりをみせています。このように内外問わず人と人の関わりに丁寧に取り組んでいる事業所であることが十分受けとめられました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、夕礼時に唱和し、常に念頭に置くよう心掛けている。また、各会議で、ホーム目標の確認をしている。	グループの運営理念とホーム目標を毎朝夕礼時に唱和し、理念の共有を図っています。食が細くなった利用者に個別メニューで対応するなど、画一的でない取り組みの実践が見て取れました。「家族のようなではなく、家族として接したい」との管理者の想いがホーム全体の雰囲気には溢れていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、行事への参加に心掛けたり、地域の方のボランティアの受入に力を入れ、交流の機会をもてるようしている。	地域へ事業所のイベント案内を回覧しています。また、湖西歌舞伎や芸能祭などに利用者とお向き、施設見学の受入れも多く、双方向の関係が築かれています。ボランティアによる健康体操は毎月定期的に行われていて、年2回の介護教室は毎回5～6人の参加実績があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	常時、介護相談を受け付けており、年2回4月と10月に介護教室の開催をしている。今年は8月に、夜間想定避難訓練に合わせ、地域の方招き、納涼祭のイベントを計画している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方、ご家族に参加いただき、ホームの活動状況を報告し意見いただいたり、防災訓練見学していただいたりし、地域との防災協力のあり方等情報交換している。	家族、行政、地域など様々な参加者を得て、定期開催が叶っています。映像を利用して理解し易い説明を心掛けていることを確認しました。また、参加者からは地域の独居者に関する相談を受けたり、最新防災情報など貴重な意見を得ています。	運営推進会議議事録の作成は毎回行われていますが、出席されなかった家族への議事録配布も考慮され、情報の共有化が図られることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者に、運営推進会議に出席いただき、GH事業者連絡会も市担当者の参加をいただきながら年4回実施している。	議事録を届けるなど市担当者との連携は積極的です。行政へ進言することもあり、密な関係が構築されています。市民を対象とした認知症講座(市の受託事業)を務めた実績があります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止は、遵守し、年間の内部研修の中で学びつつ繰り返し意識付けしている。玄関等も夜間以外の施錠はしていない。	内部研修を年1回は行うようにして、「身体拘束ゼロ宣言」も行っています。施錠は夜間を除き行なっていません。死角が少ない配置と、利用者が気が済むまで一緒に行動をすることを旨としています。スピーチロックについては個々の対応にばらつきがあり課題があると管理者は考えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の研修計画の中で、虐待についての勉強会を実施し、認知症を理解した対応とともに、虐待の防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の内部研修計画に入れ職員の学ぶ機会設けると共に、管理者は、理解しており、入居者家族と相談し、司法書士との相談や、利用の話し合いもしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、十分な説明、相談をし、ご理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、ご家族様アンケート実施中。法人グループ他施設での家族アンケート結果も共有でき、サービス向上に生かしている。また面会時に、状況報告と共に要望を直接聞けるよう配慮している。	法人本部のアンケート実施が制度化されており、改善・向上の仕組みがあります。家族の面会も多く、都度話し合っています。便利については担当者のコメントを付け個々に作成するようにしたため、家族から近況がわかり嬉しいと好評を得ています。家族会も年1回食事を兼ね行っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人グループにて、職員アンケート実施している。 また、日ごろから各会議等で職員の意見聞く機会を設け運営に繁栄されるよう努めている。	職員の固定化が進み個々の意見も十分に聞けるようになってきました。新人職員は先輩職員達との間の交換日記を通して、比較的早期に現場力がつき、チームワークにも繋がっています。情報共有とともに職員意見が反映する取り組みとして、引継ぎがユニット合同で行われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員評価を年1回実施し、面談も実施し、個別指導と共に、意見相談を受け付け職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会、内部研修については、毎月実施している。外部の研修にも参加できるよう勤め、全体会議で、報告してもらい情報共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム事業者連絡会への参加や、他事業所での見学実習等実施し、よい取り組みしているホームを学ばせてもらっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居時のアセスメントや、ご家族からの情報収集に努め、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居相談の段階から、相談を重ね、入居後は、面会時等に詳細に状況を伝えるよう努め、要望等聞きつつ関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の要望や、ご本人がおかれている状況も勘案して、どのようなサービスが必要なのかを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフとしてではなく、少しでも家族に近づけるようにとの思いで、ともに暮らすことをめざし、自分ならどうされたいかを考えつつ、ケアを考え信頼関係を深め安心して生活して頂けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事案内も含め、家族の協力の必要性・重要性は、そのつど伝え、面会等ご協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や、ご友人との面会を大切にしている。 なじみの美容院や、歯科医院への介助や、家族との外出や、外食も勧めている。	家族と外食したり、友人の面会も多く、蜜柑や野菜などの差し入れもあります。本人希望の理美容院、書店や手芸品店そして利用者が活ける生花の購入などの支援も行っています。ミニ菜園での枝豆やとうもろこし、ごうやのグリーンカーテンなど、訪問時には利用者の手によるものが多くみられました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	さまざまな生活活動の場面で、利用者様同士の人間関係作りが進むよう、またトラブルにならないよう見守り支援している。人間関係等の変化に応じてテーブル配置や、席替え等も必要に応じて工夫している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族への電話連絡での、経過のフォローや相談に努めている。また、入院、入居された近隣施設に面会等もしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なじみの美容院、床屋など、個別の希望に、出来る範囲でこたえられるよう支援している。日々さまざまなアプローチにて、興味関心を示してくれるもの探し、継続的に出来るよう支援している。	個別用申し送りノードで記録を留め、気づきシートで発語を収録し、本人の思いを汲取る努力が続けられています。一人の利用者が行った家事により、それまで何もしなかった利用者が影響を受け自発的にするなど、以前の思いや暮らしを一部取り戻す事例もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントで把握に努めるとともに、入居後もご本人や、家族、面会の友人等からの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日報や、申し送りノート、バイタルチェック表など活用し、経過情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にて話し合っている。家族参加が難しいため、面会時や、電話にてご意見をいただいている。一人の利用者に対し二人の職員での担当制とし、気づきシートにて状態把握しチームでの計画作りに努めている。	担当に副担当を加えたため、職員間の技量差が埋まり利用者への気づき向上がありました。経過面では3ヶ月毎、身体面では6ヶ月毎に見直し、気づきシートを中心にアセスメントを行っています。家族の意見は面会時や電話で直接覗き、プランに反映するよう努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報、申し送りノート、介護記録を活用し、朝夕礼にて申し送りして情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズに対応する方法を、常にどこまで出来るか、柔軟な発想のもと検討している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご友人の面会支援を家族にお願いしたり、地域の方のボランティア交流の機会など設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回かかりつけ医による往診を受けている。入居時と年1回の健診も実施しており、必要に応じての受診介助や、家族には、継続的なかかりつけ医への受診の協力も一部頂いている。	協力医の往診が月1回あります。入所前からのかかりつけ医受診は5~6名おり、家族が経過情報のコピーを持参しています。受診報告は家族と職員で共有しています。服薬はグループ本部の厳格なマニュアルに沿って管理運用されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師業務のため、常に利用者の健康状態については、報告相談できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	頻回に面会にて、入院治療状況の把握に努めるとともに、普段から医療相談員との関係も築きつつ情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、意向確認しておくとともに、状態の変化に応じ、常に家族と相談しながら、地域の医療施設等関係者とも相談しながら支援している。	重度化や看取りの実績はなく、方針としても今後の予定はありません。家族とは入居時に合意形成ができていて、状態変化には他施設情報など支援に努めています。急変時や飲み込み吸引の研修を行っています。	急変時対応研修も行われ、情報の共有化も図られています。今後は利用者家族との急変時対応確認書を備え、バックアップ体制に余念がないことを期待いたします。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修の実施や、実際に対応した後の反省会にて、全ての職員が、適切な対応とれるよう周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の訓練計画に基づいて実施している。5月の運営推進会議でも、地域の方に見てもらい、意見をいただくとともに、今後の協力もお願いしている。8月には、夜間想定避難訓練実施に合わせ、地域交流会を計画している。津波想定2階への避難や、避難場所への移動訓練も実施している。	消防署に訓練計画書を毎回提出し、年3回避難訓練を実施しています。地震想定による火災避難訓練や夜間想定避難訓練を夕方に行うなど、多様な取り組みを心掛けています。備蓄は2階の部屋に3日分を確保し毛布や懐中電灯も多数用意されています。	避難時の利用者安全確保をさらに検討することを期待します。例. 防災ずきんの採用など

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の利用者様の生活史などの把握と、現在の状態の把握に努め、プライドに配慮した対応ができるよう努めている。接遇マナーの研修も実施している。	接遇の研修を年1回行い、スキルチェックシートや個別到達度チェックを利用して、馴れ合いにならない工夫に努めています。さんづけを原則ルールとし、利用者にあった個々の接し方と共に、サービス業としての意識付けも心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけや、傾聴にて、ご本人の希望を聞きつつ、分かりやすく選択できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日をどのように過ごしたいのか、いくつかの選択肢の中から、出来る限り希望に添える支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の選択、散髪時の髪型等、出来る範囲で希望を聞きつつ支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物と一緒に出かけ食材を選んでもらったり、調理の下ごしらえ、盛付、あとかたづけなど出来る範囲で、利用者に参加していただけるよう支援している。季節の行事食や誕生日食にも取り組んでいる。	グループ本部が決めたメニューに利用者との会話で汲取った要望を調理委員会が柔軟に対応し、変化のある食事を楽しんでいます。食材買出しや下ごしらえから調理片づけまでする利用者もいます。おやつは週1~2回は手作りで、利用者の参加もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事量、水分摂取量をチェックし、必要に応じて申し送り、経過の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別の能力に応じて声かけ支援し、口腔の清潔保持に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンチェックを必要に応じて実施し、誘導パターンを作ったり、オムツはずしにも取り組んでいる。	排泄パターンを把握し、トイレ誘導のタイミングを図っています。入所前の状態から、声かけて向上した実績もあります。自立を考えた支援と見守りを個々のレベルで対応し、夜間は定時誘導、睡眠優先を利用者の状態に合わせて行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックしつつ、個々の体調に応じた排泄援助実施している。根菜中心のメニューや、食物繊維、乳製品の活用等も工夫している。水分摂取の促しや、運動の支援もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に声かけし希望やその日の体調に応じ入浴支援をしている。入浴中は、個別支援にて会話を楽しんで頂けるよう心掛けている。	入浴は毎日準備し希望に合わせて午前、午後の入浴が可能であり利用者は週2~3回はできています。マンツーマン介助の入浴で、原則的にその都度湯の張替えを行っています。2ヶ月に1度は変わり湯や入浴剤の工夫もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを整え、夜間の睡眠が十分確保できるよう、日々の生活活動へのお誘いをしている。 また、日々の体調の把握にも努め、必要に応じていつでも休息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容や、注意点の周知に努め、経過観察しながらの服薬管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活活動を個々の能力に応じて割り振り、役割として出来るよう支援している。身体能力や、気の合う方同士での、外出や、レク活動の支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物、散歩、外出レクの機会を作り支援している。ホーム庭での菜園や、プランターでの花作り等とおして、外気浴等に取り組んでいる。ご家族による外出支援や、行事参加も願っている。	湖畔の散歩や外気欲も頻繁に行い、途中、高校のボート部の練習に興味を覚え、学生に声掛けをする利用者もいます。月1度のドライブでは水族館、花見、親水公園などに出かけています。利用者の希望を汲み図書館に出かける支援もしています。家族とは墓参りや外食で外出し、一時帰宅する利用者もいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族希望で、携帯電話使用されている方もあり、ホームの電話も、希望あれば使ってもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただけるような掲示、装飾に心掛け、職員と利用者が一緒に掲示物、作品作りに取り組んだり、行事の様子等写真で掲示している。	温湿度計が管理され、掃除・換気は毎日行われていて、明るい空間が作られています。利用者・職員が制作した貼り絵や折り紙、また外出時の楽しそうな写真が壁に配置良く飾られて雰囲気を和らげています。浴室は水滴を徹底的に拭き取り、清潔保持に努めているため新築時のような美しさを保っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個別の席を決めているとともに、そのときの状況に応じて、個々がゆっくり出来る場所作りを支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人家族と相談しつつ、本人が暮らしやすい空間作りを支援している。今まで暮らしていた部屋をそのまま持ち込んで頂くことをコンセプトに、、タンスや、テレビ、仏壇等も自由に持ち込んで頂いている。	居室にはエアコン・クローゼット・オート換気設備も備えられています。本がたくさんあったり、ドレッサーに化粧道具が置かれたりなど、様々な趣から本人の使い慣れたものや好みのものを活かす支援があることが受けとめられました。開け放たれた窓から入る風が心地よく、居心地良い暮らしがあることが感じられました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂場、トイレなど、案内表示等工夫しつつ、自立した生活が送れるように似に支援している。		